

事業実績報告書

様式 2 (2021年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-20	講座名	古墳と環境～地域の宝を考える。発見、保護、活用、継承～
記載日		団体名・企業名	環境カウンセラー岡本明子
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>環境カウンセラーと行く、今回のテーマは『地元の宝、古墳と自然』です。</p> <p>名古屋には、様々な宝物があります。それを見つけ、保護し、継承するだけではなく、上手な活用法を探る必要があります。今回は、地域の宝である『古墳と自然』を座学・見学を通して学びます。</p> <p>自然は、鎮守の森や公園など地域の宝として守られてきました。ただ保護するだけではなく生活に取り込み、傷めないような活用法を探りながら今日に至る実績があります。この活用法を参考に、古墳を知り、守り伝える方法を探る機会を探る講座です。</p> <p>歴史(古墳)に興味のある人、自然や地元が好きな人、ワイズユースを考える人、に参加を呼びかけました。</p>			
写真を添付してください 写真1		写真を添付してください 写真2	
※写真1の説明		※写真2の説明	
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>今回の講座は、古墳好きの人、環境系の人、半々程度かと思っていたが、実際には、古墳に興味のある人がほとんどという参加者構成だった。ただ興味があるという人もいたが、各地の古墳をめぐる人、博物館などのボランティアの人など、古墳に興味のある人がほとんどだった。</p> <p>古墳と環境をつなぐ4回目の座学の欠席者が目立つなど、環境や地域資源を考える機会を作りたいと思っていた意図とは、少しずれてしまったように感じる。</p> <p>最終日、講座の意図や参加者に考えてもらいたいことなどを再再度強調、最終的なアンケートでは、環境への興味が大きくなったという意見や、古墳を地域の宝を守るにはどうしたらいいかといった意見も出てきてホッとした。</p> <p>環境とは少し離れた所から環境を見つめるという『斜めからの視点』で企画する講座の難しさを実感した。</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)			